

**GEYMS 産婦人科向け超音波診断装置の
最上位機種「Voluson E8」を
本格発売(2007/4/5)**

GE横河メディカルシステム(株)は、産婦人科・乳腺
甲状腺用超音波診断装置「Voluson(ボルソン)」シ
リーズの最上位機種「Voluson E8」を本格発売し、
4月5日(木)、ホテルニューオータニ(東京)にて新製
品記者発表会を開催した。Voluson730シリーズより
小型化・軽量化を実現した「Voluson E8」は、大学
病院・地域基幹病院の産婦人科や産婦人科開業医
を主な対象としている。

<主な特長>

● **基本Bモード画質と3D/4D性能が向上**

新開発の本体プラットフォームとプローブを採用し
たことで、基本Bモード画質と3D/4D性能が向上し
ている。素子数を世界最大の256個(従来機では
192)としたプローブ、プローブと本体の連結部分
からピンをなくしたピンレスコネクタを採用したほか
、ハードウェアを改良してその256個すべてを同時
に駆動できるプラットフォームを採用している。

● 「STIC」機能と「SonoVCAD」により胎児の
先天性心疾患の早期発見に貢献

胎児や新生児の心臓を対象にした「STIC(Spatio-
Temporal Image Correlations)」機能を搭載。サ
イズが小さく、拍動も速い胎児の心臓の動きを鮮
明に描出できるとともに、撮影画像をVolumeデー
タとして保存することで、必要な断面像・立体像を
構築・解析することができ、再検査が不要となる。
また、新開発の「SonoVCAD」を併用することによ
り、複雑な胎児心臓の四腔断面や左室流出路断
面、右室流出路断面、ならびに腹部における胃泡
の位置を自動的に表示することが可能である。

● **乳がん診断や穿刺(バイオプシー)にも対応**

乳房用高周波プローブにより、Bモードでも高画質
画像の描出が可能。また、乳房用高周波4Dプロ
ーブにより乳腺や腫瘍の描出力が向上し、産科で
の胎児診断のみならず乳がんの診断や穿刺(バイ
オプシー)にも応用できる。

GEYMS
(Voluson E8)

